



ISAGAI Lab.

Keio University Shonan Fujisawa Campus

# 鷹栖町元気プロジェクト 令和4年度活動報告書

慶應義塾大学 飯盛義徳研究室

北海道鷹栖町元気プロジェクト





# 目次

1. プロジェクト概要
  - i. プロジェクト概要・目的
  - ii. プロジェクトメンバー
  - iii. 運営体制
2. 事前学習
  - i. 事前学習概要
  - ii. 事前学習（7月5日実施）
3. 夏合宿
  - i. 夏合宿概要
  - ii. 夏合宿1日目：鷹栖町内視察
  - iii. 夏合宿2日目：班別フィールドワーク
  - iv. 夏合宿3日目：班別フィールドワーク
  - v. 夏合宿4日目：提言発表
  - vi. 提言内容概要一覧
  - vii. 提言内容概要（班別）
4. 2022年度活動内容
  - i. 今年度の活動
  - ii. 11月フィールドワーク
  - iii. 1月フィールドワーク
  - iv. 2月フィールドワーク
  - v. 3月フィールドワーク
  - vi. 成果報告会資料一部
5. 成果まとめ
  - i. 今年度の成果
  - ii. 今年度の反省
6. 2023年度の活動
  - i. ふらっとベースの活動促進
  - ii. 鷹栖町民との関係構築



# 1. プロジェクト概要

1. プロジェクト概要・目的
2. プロジェクトメンバー
3. 運営体制

# 1. プロジェクト概要・目的

## ①概要

本研究プロジェクトでは、鷹栖地区住民センター“ふらっと”を拠点に、鷹栖町の小中高生を巻き込んだ活動の中で、住民の方々との交流を通して、将来的に子どもたちが主役となり、地域の資源を発掘し、鷹栖町における問題解決につながる活動を生み出す仕組みを構築することを主眼とする。

## ②目的

“ふらっと”の利用者を増やすことで、多様な人が参集し、相互作用を生み出せるような、住民の方々の「居場所」となるコンテンツを住民の方々につくる。

## 2. プロジェクトメンバー

今年度、大学側は以下のメンバーで、学生が中心となり、教職員はサポーターとして活動した。

### 教職員・アドバイザー

飯盛 義徳	慶應義塾大学総合政策学部教授
伊藤 玲緒	慶應義塾大学総合政策学部3年

### 学生

七条 祐香	環境情報学部4年	久野 泰生	環境情報学部3年
関 健太	総合政策学部4年	◎小林 美月	総合政策学部2年
成田 一帆	総合政策学部4年	西川 草羽	総合政策学部2年
山之内 鈴那	環境情報学部4年	富澤 倖之介	環境情報学部2年
新井 もえ	環境情報学部4年	清水 美咲	環境情報学部1年
小室 彩和	総合政策学部3年	竹本 晴登	環境情報学部1年
高谷 秀聖	環境情報学部3年	我妻 里莉	総合政策学部1年

※◎はプロジェクトリーダー

# 3. 運営体制

運営	
◎新井 もえ	環境情報学部3年
小林 美月	総合政策学部2年
西川 草羽	総合政策学部2年

ふらっとベース	
◎我妻 里莉	総合政策学部1年
小林 美月	総合政策学部2年
竹本 晴登	環境情報学部1年

SNS・WEB	
◎高谷 秀聖	環境情報学部3年
小室 彩和	総合政策学部3年
清水 美咲	環境情報学部1年

※ ◎は各班のリーダー



## 2. 事前学習

1. 事前学習概要
2. 事前学習（7月5日実施）

# 1. 事前学習概要

## ①概要・目的

2022年9月1日～4日に行われた  
鷹栖町夏合宿に向けて事前学習を行なった。

日時：2022年7月5日4,5限

活動場所：飯盛義徳研究会

参加者：飯盛義徳研究室に所属する学生全員

## ②内容

鷹栖町役場で勤務されている小松田光氏に、鷹栖町やふらっとの現状について講義していただいた。講義内容を踏まえて、『「ふらっと」が、多様な分野の住民活動や交流が生まれ、まちの賑わい（住民主体の活動）が創造される拠点となる方策を提案してください。』というワークテーマで議論し、発表した。





## 2. 事前学習（7月5日実施）

### ③結果（1班～4班）

- 1班：日常利用を促進するためにイベントを開催し、愛着を高める。
- 2班：イベントなど運営と住民のつながりを作り、強制的に使う機会を増やす。
- 3班：住民サークルを立ち上げることで、活動を発信し、コミュニティ拠点として発展させる。
- 4班：町主催のイベントを開催したり、日常的に利用できる場を提供する。

## 2. 事前学習（7月5日実施）

### ③結果（5班～8班）

5班：カフェ運営・道の駅を目指す、アクションをしたい人が共有できる  
掲示板を設置する、みんなで作り上げた感が生まれる環境をつくる

6班：住民主体のイベントを企画したり、行政介入度の調整をする。

7班：イベントを休日に開催してふらっとユーザーを増やす。

集まった人たちでイベントができるような仕組みを作る。

8班：高校生カフェ

企画～運営まで高校生主体となることでふらっとの利用率を上げ、その他  
の世代を呼び込むことで多世代交流を促進する。



## 2.夏合宿

1. 夏合宿概要
2. 夏合宿1日目：鷹栖町内視察
3. 夏合宿2日目：班別フィールドワーク
4. 夏合宿3日目：班別フィールドワーク
5. 夏合宿4日目：提言発表
6. 提言内容概要一覧
7. 提言内容概要（班別）

# 1. 夏合宿概要

	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日
午前	避難所運営 訓練参加	班別 フィールド ワーク	班別 フィールド ワーク	提言発表会
	ふらっと 館内案内		たかす マルシェ見学	
午後	鷹栖町内 バスツアー	鷹栖町の方々 との意見交流会	夕食交流会	

※詳細は次ページ以降に記載あり



## 2. 夏合宿1日目：鷹栖町内視察

### ①開会式

鷹栖町に到着してまず、歓迎挨拶や夏合宿開校式を開催していただき、鷹栖町と慶應義塾大学SFC研究所の連携協定を結んだ。



### ②「ふらっと」館内案内

初日はこれから我々が活動する「ふらっと」を知るため館内案内をしていただき、「ふらっと」の可能性を探った。



### ③避難場運営訓練

「ふらっと」で開催された避難所運営訓練に参加し、住民の方との交流をはかった。



## 3. 夏合宿2日目：班別フィールドワーク

### ①班別フィールドワーク

この日は各班に分かれて鷹栖町の様々な方にインタビューを行った。鷹栖町でお店を営業されている方、農家の方、商工会の方、公民館の方など鷹栖町で活躍されている様々な方から意見をいただき、活動を考える元とした。





## 4. 夏合宿3日目：班別フィールドワーク

### ① たかすマルシェ

午前中、「ふらっと」にてたかすマルシェが開催されていたため、お手伝いをさせていただきました。私たちは、鷹栖町で育てられた野菜を販売した。



### ② グループ活動

各班、フィールドワークや自分たちのアイデアをもとに最終日の「鷹栖町夏合宿 提言発表会」に向けて提言内容を詰めた。





## 5. 夏合宿4日目：提言発表

### ①鷹栖町夏合宿 提言発表会

我々は合宿期間を経て考えた「ふらっと」の活用についての企画を各班それぞれ発表した。

鷹栖町長をはじめとした鷹栖町の方々、自治体の方々にも実際に見ていただき、最終的にどの班の企画が鷹栖町に合っているかを審査していただいた。





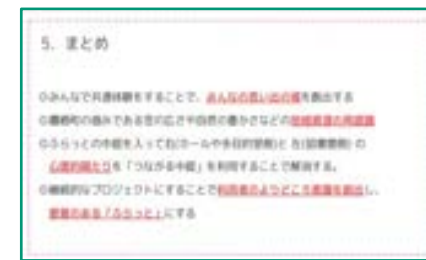
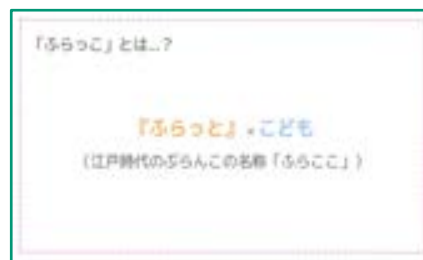
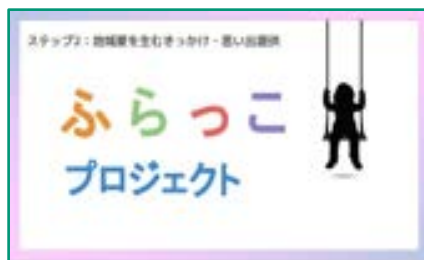
## 6. 提言内容概要一覧

	題名	内容	背景
1班	ふらっこプロジェクト	館内活動の可視化を行い、次に地域愛を生む思い出を提供	地域住民の”居場所”になっていないと感じたから
2班	鷹栖の日常にひとさじ分のいろどりを！	脱目的と目的の拡充の二軸をもとに、2つの企画を実施	現状のふらっとは、訪れる目的が不足していると感じたから
3班	ふらっとへの愛着を高める～PARKUS～	施設を大学生と住民が一緒に作り出すことで、愛着を創造	敷居が高く、目的及び用事がないと感じたから
4班	サークルフォーマットの作成と提案	サークルフォーマットを活用することで、町民の認識を変化	施策よりふらっとに対する認識変化が最も必要だと感じたから
5班	鷹栖町の町花！マリーゴールド事業	パパママの社会的孤立を防ぐ事業を実施	町のシンボルがない、中間層の社会的孤立が問題と感じたから
6班	長期的に考える飯盛研究会とふらっとの属性の異なる住民に対する効果的なアプローチ	飯盛研究会が抜けても住民起点の新しい活動を生み出し続けられるためのアプローチ	中学生以降の年代に対して、ふらっとが価値ある場所になると感じたから

# 7. 提言内容概要(1班)

1班「ふらっこプロジェクト」 ※一部抜粋

※



## 背景（問題意識）

地域住民へのインタビューを経て、  
鷹栖町「ふらっと」の現状は、  
①参加者が固定されてる、②イベントが少ない、  
③刺激が少ない、など6つを指摘した。  
そこから地域住民の“居場所”になっていない  
という点を最大の課題と掲げた。

## 提言内容

「アート×居場所×こども」を目指すべきと  
提案した。  
館内活動の可視化として、案内紙「ぺらっと」を  
発行する。その後、地域愛を生むきっかけとして、  
施設内空間に共同でぶらんこを作成する  
「ふらっこプロジェクト」を提案した。

# 7. 提言内容資料(1班)


1班

高橋、中村、金井、小梁川、小林、竹本

目次

1. インタビューより
2. 鷹栖町「ふらっと」の現状・課題
3. ふらっとが目指すこと
4. 提言
5. 具体的な内容
6. まとめ

1. インタビューより



1. インタビューより



黒こっこ 佐川さん

「手取りに、直接触れて欲しい」

- ❑ 第三セクターである「四季の里」や、自治体支援の無料講習会はあるが利用者が少ない
- ❑ 移住者の人は増えているが、交流の機会がないためギャップがある
- ❑ ネット販売より対面販売
- ❑ 「ふらっと」に初めて来たという住民の声を聞く

# 7. 提言内容資料(1班)

1. インタビューより



「“たかす”の素晴らしさをもっと知ってほしい」

- ❑ 鷹栖町は、人もモノも素晴らしい
- ❑ 鷹栖産を世界に広げていきたい
- ❑ 北海道移住フェアをやっても、鷹栖のブランド力は弱い
- ❑ 元々鷹栖町で農家をやっている人は負担することに消極的

たかすタロファーム 平井さん

1. インタビューより



「若い力が変化を起こす原動力に期待」

- ❑ 農工業者の70%以上は後継者がいない
- ❑ 新規会員の殆どは鷹栖町外からの移住者
- ❑ 青年部は、色々と活動意欲がある
- ❑ 種類としては、建設土木業が多い(約30社)

商工会 水野さん・今野さん

1. インタビューより



「町民にとって“たかす”を身近なものに」

- ❑ 縁のつながりが少ない
- ❑ 放課後の就業場がない
- ❑ イベントに人が集まることは珍しくない
- ❑ 気軽に町内で町内のものを買ってほしい







新田ファーム 新田さん

2. 鷹栖町『ふらっと』の現状・課題



# 7. 提言内容資料(1班)

## 2. 鷹栖町『ふらっと』の現状

-  『ふらっと』を使った活動はあるが、参加者が固定化されている。
-  夏に比べて、冬はイベントや活動が少ない。
-  子供にとっては刺激の少ない町。
-  アイデアはあるが、実現方法のわからない・興味のない町民が多い。
-  館内の情報共有がされていない
-  目的のために利用しており、共創活動が生まれていない。

## 『ふらっと』最大の課題

地域住民の“居場所”となっていない



## 3. 『ふらっと』が目指すこと



アート

×

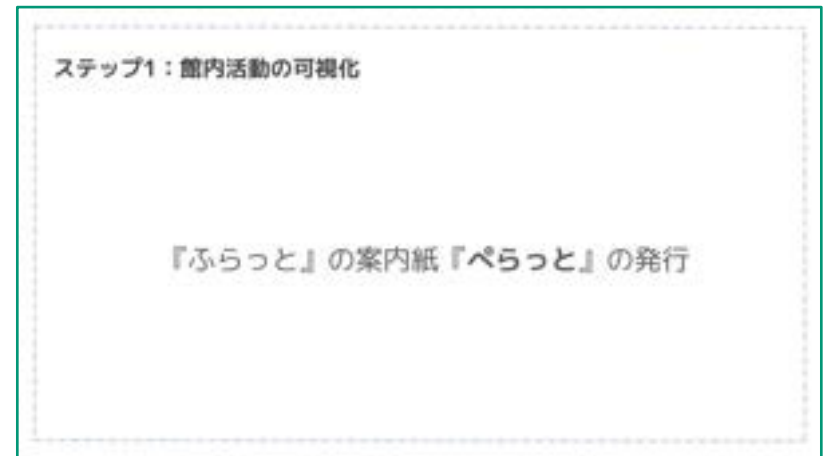
居場所

×

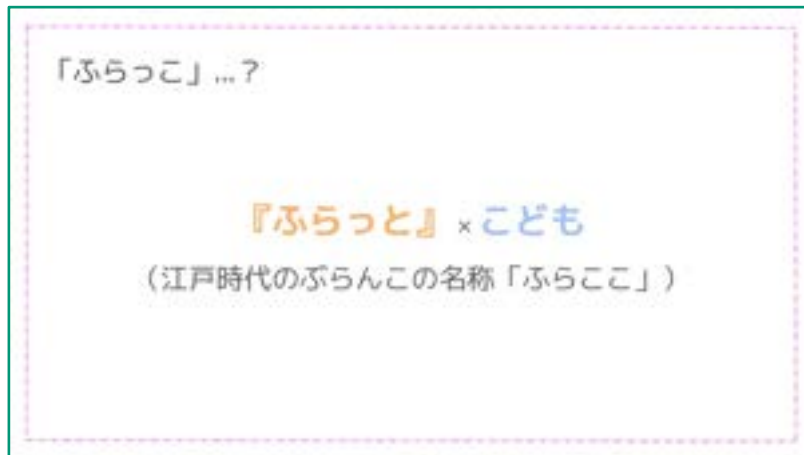
こども



# 7. 提言内容資料(1班)



# 7. 提言内容資料(1班)



# 7. 提言内容資料(1班)

### 『ふらっこ』概要

**制作時期:** マルシェなどのイベントでに行う、半年程度で1つ完成

**制作場所:** 駐車場→誰でも見やすく参加しやすい→みんなで作る意識を醸成

**設置場所:** 中庭→中庭にすることで「ふらっと」の右左の隔たりを減らす  
芝生→施設周囲から何の施設かが分かる→みんなの施設化

**仕組み:** 制作過程(地域の人との交流)→制作物完成→中庭に設置→芝生に設置

### なぜぶらんこ?

#### 空が広い

→「地元の魅力」として  
地元の人が  
発見・体験・認識する機会

#### イス的役割

→入口と施設の間から生じる  
施設に入る抵抗感の解決  
→イベント時の休憩場所  
→親場所の提供

### メリット

多世代交流

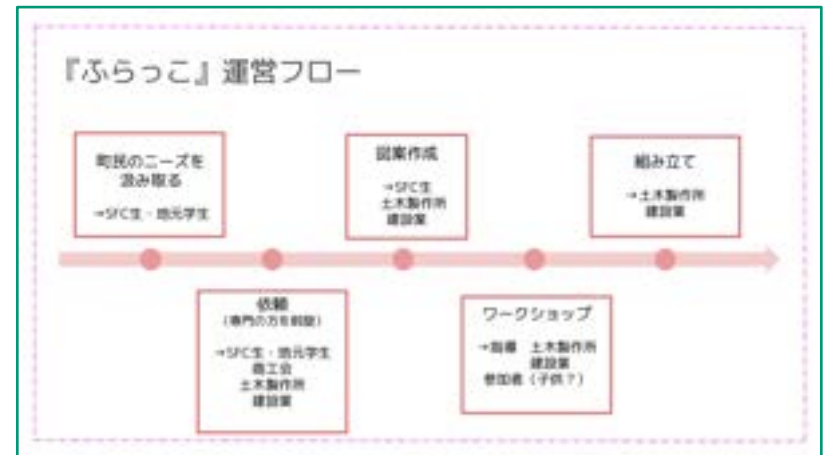
地域資源の活用  
本材・人材・空

建築家の後継者不足に  
貢献する可能性

地域/ふらっとへの愛着  
を生む機会

空間として滞在できる  
余白を作る

### 『ふらっこ』運営フロー



```

    graph LR
      A[市民のニーズを  
汲み取る  
→JIC生・地元学生] --> B[図案作成  
→JIC生  
土木製作所  
建築家]
      B --> C[組み立て  
→土木製作所  
建築家]
      D[依頼  
(専門の方を相談)  
→JIC生・地元学生  
木工会  
土木製作所  
建築家] --> E[ワークショップ  
→制作 土木製作所  
建築家  
参加者(子供?)]
      E --> C
  
```



# 7. 提言内容資料(1班)

**子供が遊べる木の遊び場**  
サイズを調節すれば  
保育園内への設置なども可能



**子供が遊べる木の遊具**  
ふらっとに揺らす  
遊具だけでなく  
実際に持ち帰って  
日常に遊ぶことも可能



**子供が遊ぶ木の遊具**  
子供が遊ぶ木の遊具  
簡単に設置できる  
フレイクボードなどの内容を  
作ることで世代間交流も可能



**遊具が生まれる経路**  
本館にのびる廊下にて  
展示する  
展示は子供の参加に賛同



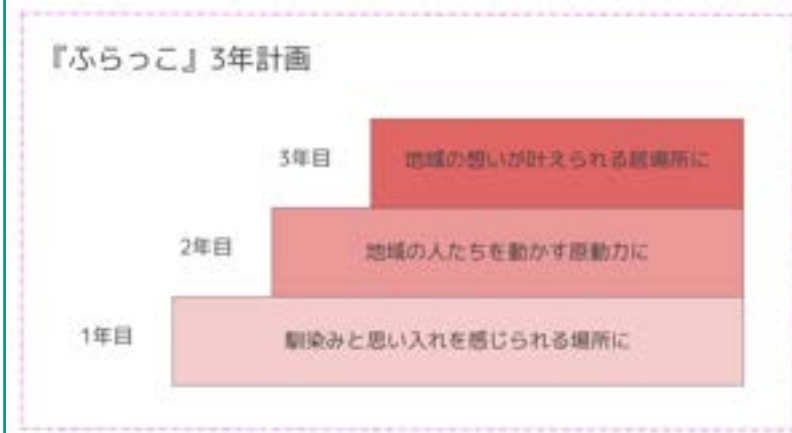
**乳児ペンチ**  
木製の子供用ペンチ作り、作る  
子供はよびや楽しみを持つ  
材料は子供たちの意見として提供  
するしるしなどのイベントの際は  
展示用のペンチとして機能



**木のジャンプボール**  
音、リズム、リズム、リズム、  
子供が遊ぶ木の遊具の作りかた  
ジャンプボールを遊具の中心に  
あつめてみる



### 『ふらっこ』3年計画

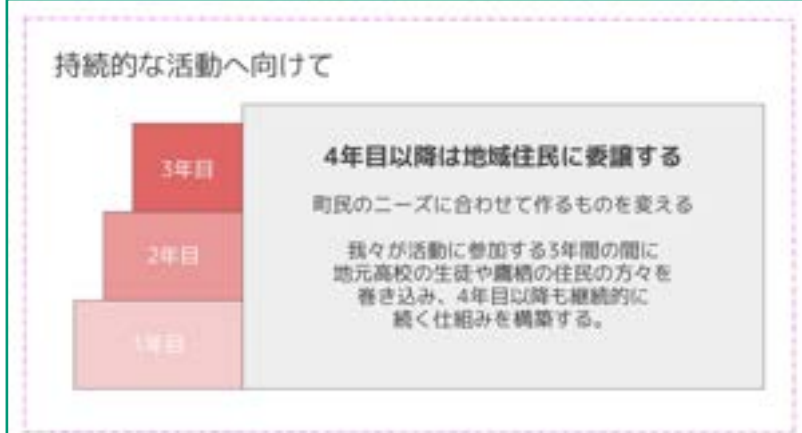


1年目 馴染みと思い入れを感じられる場所に

2年目 地域の人たちを動かす原動力に

3年目 地域の想いが叶えられる経路所に

### 持続的な活動へ向けて



4年目以降は地域住民に委譲する  
町民のニーズに合わせて作るものを変える

我々が活動に参加する3年間の間に  
地元高校の生徒や鷹橋の住民の方々に  
巻き込み、4年目以降も継続的に  
続く仕組みを構築する。

### 5. まとめ

- ◎みんなで共通体験をすることで、**みんなの思い出の場**を創出する
- ◎鷹橋町の強みである空の広さや自然の豊かさなどの**地域資源の再認識**
- ◎ふらっとの中庭に入って右(ホールや多目的室側)と左(図書館側)の**心理的隔たり**を「つながる中庭」を利用することで解消する。
- ◎継続的なプロジェクトにすることで**利用者の居場所を創出し、愛着のある「ふらっと」にする**

# 7. 提言内容概要(2班)

2班 「鷹栖の日常にひとさじ分のいろどりを！」 ※一部抜粋

※



## 背景（問題意識）

地域住民へのインタビューや鷹栖町を実際に見て、「鷹栖で〇〇してみたい」が実行に移せていない、「現状の暮らしにけっこう満足している」という点に気が付いた。

そこから、ふらっとには、目的が必要であり、現状はその目的が足りていないと判断した。

## 提言内容

- ① 「ふらっと」をつくると
  - ② たかすのごちそうプロジェクトの2つを提案した。
- ①は親子をターゲットに、ワークショップを実施して、それをシステム化していく。
- ②は住民が運営・マネジメントを行うレストランイベントを実施する。
- 結果として、脱目的と目的の拡充を行う。

# 7. 提言内容資料(2班)



アジェンダ

1. 2班から見た鷹栖
2. ふらっとの課題
3. 利用者増加のための企画
4. まとめ



鷹栖を見て


『仕事帰りにご飯を食べたいなあ』

『農業を大切にしたいなあ』

『鷹栖何にもないなあ』

『お店をやる人が増えてほしいなあ』

『鷹栖が賑やかになって欲しいなあ』



# 7. 提言内容資料(2班)


見えた鷹栖の現状


「鷹栖で〇〇してみたい」  
が  
なかなか実行にうつせていない

現状の暮らしに  
けっこう満足している！

ふらっとの課題

**目的の必要性**  
イベント等の開催時は利用者多数  
↓  
日常利用の少なさ




**目的不足**   
イベント等に伴う各部屋の利用・図書室  
等コミュニティスペースの利用目的  
ともに少ない

▽

現状、ふらっとは“フラット”利用されていない  
かつ、訪れる目的も不足している

2軸からのアプローチ

**脱目的**  
コミュニティスペースの  
利用者数増加



**目的の拡充**  
各部屋稼働率up



メインコンセプト

鷹栖の日常にひとさじ分のいろどりを！



# 7. 提言内容資料(2班)

2つの企画

企画その①  
「ふらっと」をつくる



企画その②  
たかすのごちそうプロジェクト



既存のプラットフォームを利用しながら、広報・発信にも力を入れていく。  
(地域内外の人が、ふらっとで何をしているのを知る。)

企画その①  
「ふらっと」をつくろう



企画その① 「ふらっと」をつくろう

みんなの手で「ふらっと」を使いやすい場所に!

パンチ・机・イスなどにペンキで手形を付ける

「手形アート」ワークショップを開催




企画その① 「ふらっと」をつくろう

ターゲット：親子（子供だけでなく親子で参加してもらえるように）  
→ 結果的に全員に来てもらえるように



# 7. 提言内容資料(2班)

企画その① 「ふらっと」をつくろう

ワークショップ開催

ビニールシートなどを活用し、駐車場やホールでカットやペイント



森林組合 大工さん

IKEA効果：自分達で何かを作ることによって受着と当事者意識が生まれる

材料は空き家を解体した木材の再利用を検討


13

企画その① 「ふらっと」をつくろう

環境を整えていく

【初年度】  
ふらっとに置くためのベンチやスペース作りに必要なものを作成


【次年度以降】  
初年に加えて必要なものを作業



構築したものに、システムを導入するイメージ

14

企画その②  
たかすのごちそうプロジェクト



15

企画その② たかすのごちそうプロジェクト

ふらっと（ホール/屋外テラス席）

9月下旬の約2週間

住民主体のレストランイベントを開催

産地の野菜を活用した料理を提供！  
お子様ランチなど子供向けのメニューも用意



16

# 7. 提言内容資料(2班)

企画その② たかすのごちそうプロジェクト

産直をいがす      日替の飲食店として      コミュニティづくり      料理教室



17

企画その② たかすのごちそうプロジェクト

10月~	2月	3月	4月~5月	~9月	9月下旬
<p>&lt;計画&gt; 進め方の検討など</p> 	<p>メンバー 募集</p>	<p>&lt;MTG&gt; 方向性や 計画</p>	<p>団結文 届け</p> 	<p>食品開発 作物栽培、収穫</p>	<p>レストラン イベント (PT生も 参加)  2週間ほど 実施を イメージ</p> 

18

企画その② たかすのごちそうプロジェクト

運営・マネジメント

<1年目> 新産地/地産おこし協力を → メンバー募集 → 各イベントに参加する人

<3年目以降> 募ったメンバーがコアメンバーとなり運営



19

企画その① たかすのごちそうプロジェクト

必要経費




クラウドファンディングを実施      ふるさと納税の活用

etc...

20

# 7. 提言内容資料(2班)

活動の中で発信に注力！

全世代に届くような発信の工夫！


**紙媒体**  
回覧板/はぴねすなどの高齢者利用施設でのポスター掲載

**オンライン**  
SNS/クラファンをきっかけに多くの人に情報を届ける

25


まとめ

説目的  
コミュニティスペースの  
利用者数増加



↔

目的の拡充  
各部屋稼働率up



相互作用

イベント参加者 増 → フラッと利用する人 増  
同じように  
フラッと利用する人 増 → イベント参加者

27

最後に

主役はまちのみなさんです！



28

Special Thanks!!



西間さんをはじめとし、インタビューさせていただいた皆様には大変お世話になりました。  
本当にありがとうございました！



# 7. 提言内容概要(3班)

3班「PARKUS ふらっとへの愛着を高める」 ※一部抜粋

※



## 背景（問題意識）

まちの中で行われている活動が分離していて、まちの中で行われている活動が集約されている状態にあるという前提のもと、ふらっとは認知されているが、理解、行動、日常に落とし込まれていないため、**敷居が高く、目的及び用事がない**という問題が生じていると判断した。

## 提言内容

①大学生が事業者と高校生をつなぎ、②高校生が事業者の活動に協同する際の仲介を大学生が担う。その後、③コストが低い形式で実践を行う。という循環を作り出すことで、**地域住民のふらっとへの愛着を高めることを目標**としている。

# 7. 提言内容資料(3班)

ふらっとへの愛着を高める  
~PARKUS~

3班 久野・石堂・関・七条・高井

今回のワークテーマ

どのようにして鷹栖地区住民センター“ふらっと”の利用者を増やし、  
地域づくりに資する活動を生み出すのか



前提

「地域づくりに資する活動を行う」=鷹栖町の課題を解決する

鷹栖町の課題とは??

まちの中で行われている活動が分離していること

前提

「まちの中で行われている活動が分離している状態」  
→活動間での相互作用が期待できず、地域の魅力を発揮しきれていない

「まちの中で行われている活動が集約されている状態」  
→活動間で相互作用が期待でき、地域の魅力を発揮できる  
加えて、活動人口の増加が見込める

# 7. 提言内容資料(3班)

**前提**

「まちの中で行われている活動が分離している」

↓

活動を集約することで、

「属性が異なる人々を集め・相互作用が生まれ・予期せぬ活動が生まれる」

この流れこそ、地域づくり活動

↓

その拠点としてふらっとを活用する

「地域づくりに資する活動」を行いたい拠点である  
ふらっとには人が来ない。それはなぜか。

①敷居が高いこと  
②目的及び用事がないこと



**ふらっとの現状**



認知：ふらっとの存在を知っている  
理解：使用方法、施設のコネクト  
行動：施設に入る  
日常：ふらっと立ち寄る

現状の達成度：○ △ △ ×

①・・・敷居が高いこと  
②・・・目的及び用事がないこと

**①「敷居が高い」の具体的要因**

ハード面	ソフト面
<ul style="list-style-type: none"> <li>入り口までの導線が長い</li> <li>外から中の様子が見えない</li> <li>中が暗い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>静かにしないといけない→楽しそうじゃない</li> <li>利用料金がかかる</li> <li>予約方法が不明かつ手間がかかる</li> <li>何ができるのか分からない</li> <li>自分達向けの施設だという意識がない</li> <li>交通手段がない</li> </ul>

# 7. 提言内容資料(3班)

② 「目的及び用事がない」の具体的要因

ソフト面

- 定期利用、図書室、フリースペースを以外に何もできない自由度の低さ
- 定期利用のメンバー以外に一緒に「行く・集まる」メンバーがいない

ふらっとが①「敷居が高い」、②「目的及び用事がない」場所になっている

↓

ふらっとへの愛着がない



提案の概要

STEP1つなく

大学生が事業者と高校生のニーズを把握し、事業者と高校生をつなぐ

STEP2活動準備

事業者のスムーズスタートや地域に密着した活動の実現に向けて高校生が事業者を協賛する  
伴役として大学生がたつ

STEP3実践

起業家スペースを活用したコンテナやキッチンカー、軽トラなどのコストが低い形式での事業展開を日常的に行う

技術事業による効果

この協力を支えることで、事業者及び高校生にプラスをもたらしながら、地域住民のふらっとへの愛着を高める

STEP 1 つなく

大学生が事業者と高校生のニーズを把握し、事業者と高校生をつなぐ

- 「事業者」
  - ・ 廣域町内で地域をより良い地域に向けた活動を行いたいと考える方々
  - ex) 米こっ子さん一店舗を設けたい、農家の申請さん→ブレイメールをやってみたい
- 「高校生」
  - ・ 事業者さまとある程度対等な立場であり、積極的に活動できる人材

# 7. 提言内容資料(3班)

### STEP1 つなぐ

大学生が事業者と高校生のニーズを把握し、事業者と高校生をつなぐ

鷹栖町の現状として「やりたいこと」「アイデア」が沢山ある一方で、それを実現するためのノウハウや人材が不足している

↓

飯盛研が仲介役となり、事業者に高校生を紹介

↓

実現に向けた基盤を形成する

13

### STEP 2 活動準備

事業者のスキルスタートや地域に根ざした活動の実現に向けて高校生が事業者をサポートする

仲介役として大学生がたつ



14

### STEP 3 実践 ~ふらっとでの出店~

日常的に創業スペースを活用したコンテナやキッチンカー、軽トラなどのコストが低い形式で出店事業を行う

- 「日常的に」
  - 3~4事業者ほどがそれぞれ週に1~2回活動することで、日常的に何かは行われている場所を作り出す
- 「コストが低い」
  - 建物>コンテナ>キッチンカー
  - 簡単に入れ替えられる空間を作ることで、やりたいことをもった様々なプレイヤーが参加できる空間を作り出す

15

### STEP 3 実践 ~ふらっとでの出店~

日常的に創業スペースを活用したコンテナやキッチンカー、軽トラなどのコストが低い形式で出店事業を行う



駅前から入り口までの通路が狭く中に入りにくいのも数客が高い理由の一つ。通称船や歩道橋のスペースを活用し、ふらっとを身近な施設に。

16

# 7. 提言内容資料(3班)

### 提案事業による効果

この提言を主として事業者及び高校生にプラスの効果をもたらしながら  
地域住民のふらっとへの愛着をうむ

- 施設を一緒に作り上げることで、施設への愛着をうむ
  - 活用方法を一緒に考え、実践として行なったものが存在する
- そこにいる人やコミュニティなど空間的な愛着を作ることで、ふらっとを使いたいと思う「目的」を作り出す

17



地域の人が集まれるような室内空間づくり

敷地へ踏み込むきっかけを作る連続づくり

ふらっとをそこにいくことで、「会える人」、「コミュニティ」によって構成される空間に。

18

### 達成により解決されることと残される課題

フェーズ①




ふらっとに事業者が集まることで「まちの中で行われている活動が分離している」という課題は解決されるしかし、ふらっとを拠点とした活動の集約は起きても、「活動人口の減少」「地域の魅力を発揮しきれていない」という課題の解決度合いは弱い

19

### 更なる展望①

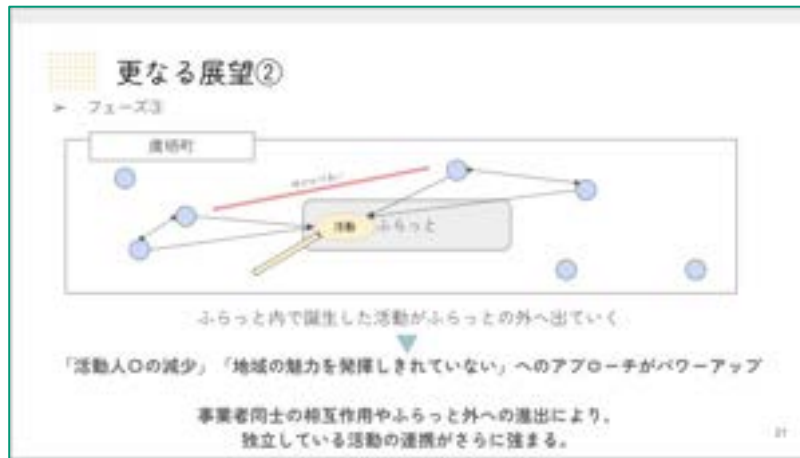
フェーズ②



フェーズ①の行程を経験した主体(事業者)が呼び掛け仕合い、再度ふらっとに集まるような相互作用が生まれたり、外部(廣橋町外)からの関係者の流入するのではないか

20

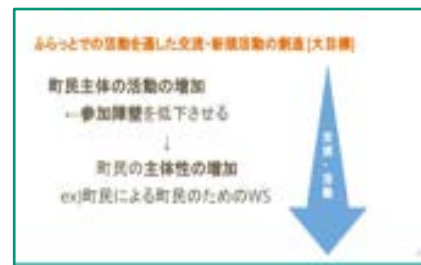
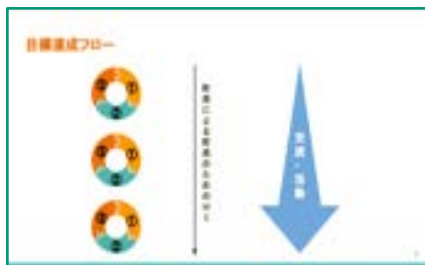
# 7. 提言内容資料(3班)



# 7. 提言内容概要(4班)

4班「サークルフォーマットの作成と提案」 ※一部抜粋

※



## 背景（問題意識）

フィールドワークやたかすマルシェにおいてインタビューを行い、「貸館として認識している」「利用者が限定されている」などの意見を受けた。そこから、ボトルネックは、**町民の方々が持っているふらっとに対する現状の認識を変化させること**だと考えた。

## 提言内容

町民の認識に変化を起こすきっかけ作りを小目標として掲げ、それを繰り返すことで、ふらっとでの活動を通じた交流・新規活動が想像されると考えた。つまり、単発のイベントや発信は有効であるが、それで終わらずくりかえすことで、このフローで行えばだれでもふらっとを使えるという**フォーマット作りが必要**と提案した。



# 7. 提言内容資料(4班)

---

  
**"ふらっと"の有効活用について**
  


---

  
4班  
 高谷・新井・加藤・成田・土居

**索引**

- 1 現状分析
- 2 ボトルネック
- 3 目標
- 4 提案
- 5 まとめ

**現状分析**

<b>目標</b>	交流と新規活動の創造
<b>現状</b>	コンテンツマネジメントの点において不十分
<b>課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸し館（イベントスペース）として認識されている（複数回答）</li> <li>・利用者層が限定されている（10代女性・70代女性）</li> <li>・中の様子が見えない</li> </ul>

**ボトルネック**

町民の方々が持っている  
 ふらっとに対する  
**「認識の変化」**

# 7. 提言内容資料(4班)

**「認識の変化」とは？**

思っていた場所と違うかも...? を生み出す

現状：ふらっとは私が利用する場所じゃないだろうな

↓

もっと気軽に使って良い場所なのかもしれない！  
思ってたより面白いことやってる場所なのかもしれない！

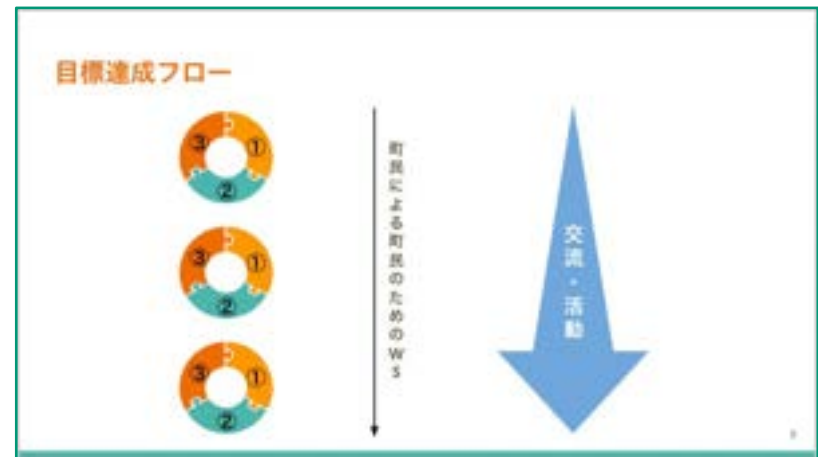
自身が利用対象者だという認識を持ってもらう



**認識の変化を促す[2つの目標]**

**\*小目標**  
町民の認識に変化を起こすきっかけ作り

**\*大目標**  
ふらっとでの活動を通じた交流・新規活動の創造



# 7. 提言内容資料(4班)

**町民の認識に変化を起こすきっかけ作り [小目標]**

①きっかけ  
単発的なイベントやWS  
→認知から興味への変化

②定着  
常設のコンテンツ・スペース  
→気軽な普段利用

↓

③利用者の増加



**ふらっとでの活動を通じた交流・新規活動の創造 [大目標]**

町民主体の活動の増加  
←参加障壁を低下させる

↓

町民の主体性の増加  
ex)町民による町民のためのWS

交流・活動



**提案**

①きっかけ (単発)	②定着 (常設)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テラス作り 駐車場側に常設するテラスをDIY</li> <li>・図工WSによる幟制作 子供たちが自由にふらっとの宣伝幟を作る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェ 施設内でのコーヒーなどの販売</li> <li>・キッズルーム 無料で自由に使える部屋の開放</li> <li>・公民館によるWS開催へのサポート 誰でも自由な内容でのWSをふらっとで開催できるような支援</li> </ul>

**具体的な小目標達成への道筋 その1**

①テラス作り

- ・活動の様子を可視化する
- ・内と外の境界線を曖昧にすることで、ふらっとを利用する心理的ハードルを下げる
- 町民がふらっとを利用する「きっかけ」を作る

②カフェ作り

- ・イベントがなくてもふらっとを利用する機会を創出する
- ・利用者の滞在空間を創出する
- 町民の気軽な普段利用を促す




# 7. 提言内容資料(4班)

### 具体的な小目標達成への道筋 その2

テラス・カフェによって認知している町民の「きっかけ」となり、「定着」となる



**②キッズルーム**

- ・子供が雨でも遊べるスペース
- ・外から子供の遊ぶ姿が見えることで、活気のある施設のイメージができる
- 親子の気軽な普段利用を促す



14

### 具体的な小目標達成への道筋 その3

**①園工WSによる機（のぼり）制作**

- ・町民のオーナーシップを醸成
- ・ふらっとへの愛着醸成
- ・ふらっとの宣伝

**②公民館によるWS開催へのサポート**

- ・WSのためのWSなど、参加障壁を下げる
- ・町民主体によるWS開催機会の増加

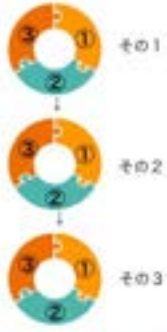
→ふらっとでの町民の交流活動が自発的になる。WS内容に興味を持った町民がふらっとに来る「きっかけ」になる




15

### 具体的な大目標達成への要素

- ・開放性
- 内と外の境界線が曖昧な状態
- ・強い紐帯
- 立場の流動性
- ・町民の主体性
- 自分たちが「ふらっと」を作る当事者
- ふらっとでの活動を通じた交流・新規活動の創造



16

### 課題と限界


- ・コアメンバーの所在
- ＜アイデアはあるが、手が回らないという町民の声＞
- 現在とは異なる「まちづくりの担い手」を育成・雇用する必要がある
- ・金銭的問題（ビジネス性）
- 助成金や補助金に頼るだけでは、金銭的制約によって継続的な活動にはならない

17



## 7. 提言内容資料(4班)

**まとめ (要約)**



- ・サークルフォーマットを活用し、①きっかけ②定着③利用者増加の流れに沿った施策を行う
- ・町民の認識に変化を起こす
- ・「ふらっと」での活動を通じた交流・新規活動を創造する

18

# 7. 提言内容概要(5班)

5班 「鷹栖町の町花！マリーゴールド事業」 ※一部抜粋

※



## 背景（問題意識）

中間層（30代～50代）の町民の方々を中心にヒアリングを行った結果、町の課題としてシンボルがないこと、町の中間層が抱える問題として将来的に社会的孤立が起こるという2点があがった。

## 提言内容

ふらっとを拠点に、① マリーゴールドの中庭菜園、②カフェ運営を行うことで新たなコミュニティ形成を目指すとともに、この町民主体で①②のサイクルを確立することでマリーゴールドを鷹栖町のシンボルとしての資源として確立させる。



# 7. 提言内容概要(5班)

飯盛研究会夏合宿2022 in 鷹栖町  
**提言発表会**  
5班  
崎川・采原・山之内・富澤

**アジェンダ**

1. ワークテーマ
2. ふらっとの現状
3. 鷹栖町の課題
4. 事業の提案
5. 事業概要
6. 具体的な事業内容
7. 事業による効果
8. 今後の展望

**ワークテーマ**

どのようにしてふらっとの利用者を増やし、  
地域づくりに資する活動を生み出すのか

↓

鷹栖町に潜む『課題』を解決するために  
ふらっとを『活用』し、町の活性化を目指す。

**ふらっとの『現状』**

・スペースが十分に活用されていない。  
・子供 / 高齢者に比べて中間層 (30代~50代) の利用者数が少ない。  
・子供 / 高齢者向けのイベントは多いが、  
中間層をターゲットにしたイベントが少ない。

<https://www.japandesign.ne.jp/space/takasu-district-residents-center/>



# 7. 提言内容概要(5班)

中間層(30代~50代)の町民の方々を  
中心にヒアリング。



## 鷹栖町の『課題』

### 町の課題

鷹栖町と言えど?というシンボルがない。  
(=町外から認知されづらい)

### 町の間層が抱える課題

・子供中心の生活になり、自分自身に向き合う  
時間が取れない。またそれを問題視していない。  
・子供を介したコミュニティにしか属していない。

将来的に社会的孤立に繋がる。

小学生~大学生の子供を持つママパパの  
セカンドライフ/キャリアを支援し、  
社会的な孤立を防ぐ。



## 鷹栖町の町花! マリーゴールド事業

ふらっとを拠点に、  
マリーゴールドの中庭菜園、カフェ運営を行うことで  
新たなコミュニティ形成を目指すとともに、鷹栖町のシンボルを確立させる。

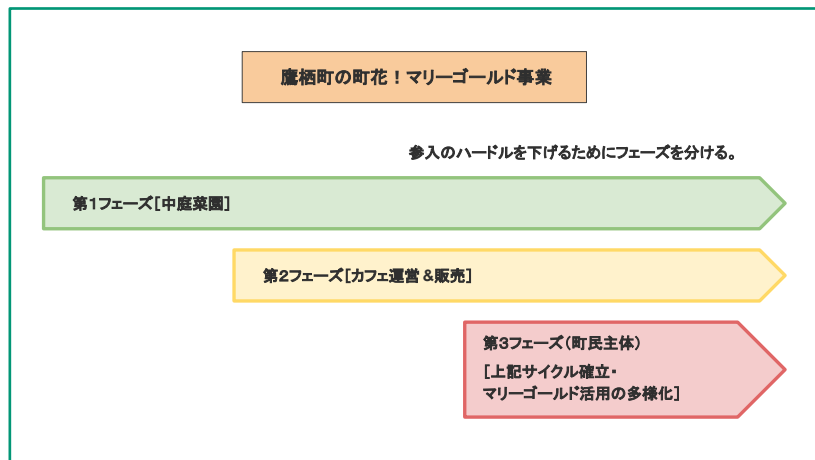


- ・鷹栖町の町花
- ・活用法が多様
- ・美容効果/アンチエイジング効果
- ・抗炎症作用
- ・婦人科系の悩み
- ・デトックス効果






# 7. 提言内容概要(5班)



**第1フェーズ**      マリーゴールドの中庭菜園

ターゲット: 親子  
選定理由: まずは子供を介した繋がりからコミュニティを育む  
場所: ふらっとの中庭

参加者	飯盛研
『ふらっとに愛着を持ってもらう』 ・花壇作り(レンガにお絵描き、割れたお茶碗、好きな形 etc) ・種まき / 水やり ・お世話のルール決め	・イベントの周知 ・運営、活動バックアップ ・物品の用意 ・住民との交流



**第2フェーズ**      カフェ運営 & 販売

ターゲット: 子供を持つお母さんお父さん  
選定理由: 子供を介さない繋がり形成  
場所: ふらっとの調理室・入り口付近のカウンター


参加者	飯盛研
・栽培したマリーゴールドを紅茶やクッキーにしてカフェ運営 & 販売 ・メニュー考案 ・ミーティングの開催 ・カフェの計画	・カフェの周知 ・運営、活動バックアップ ・物品の用意



**第3フェーズ(町民主体)**      サイクル確立、マリーゴールド活用の多様化

ターゲット: 子供を持つお母さんお父さん  
選定理由: ターゲット層の定着・拡大  
場所: ふらっと・鷹栖町内

参加者	飯盛研
・町民主体の事業(マリーゴールド事業の多様) 例: 香水、アロマ、しおり、消臭剤、ハーバリウム、フラワーロードの拡張、本格的なブランディング活動	・引き継ぎ(マニュアルなど) ・相談相手になる





# 7. 提言内容概要(5班)


マリーゴールド事業の効果		
鷹栖町の親世代	ふらっと	鷹栖町
<ul style="list-style-type: none"><li>・セカンドライフを充実させる。</li><li>・子供を介さないコミュニティに属することで、将来社会的孤立を避けられる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動の拠点となることで日常的な利用者数の増加、コミュニティ形成の場となる。</li><li>・カフェ運営等でマネタイズできる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・まちのシンボルが確立でき、観光資源となりうる。</li></ul>

今後の展望

マリーゴールドを活用して町民主体で様々な事業 / イベント展開をし、コミュニティの拡大とマリーゴールドの観光資源化を目指す。



ご清聴ありがとうございました!

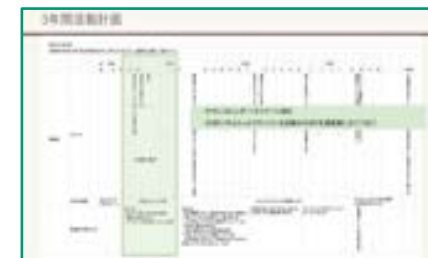
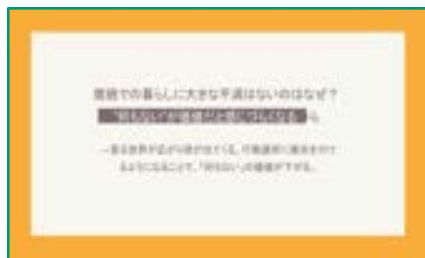




## 7. 提言内容概要(6班)

6班「長期的に考える飯盛研究会とふらっとの関係」 ※一部抜粋

※



### 背景（問題意識）

インタビューを通して、みんな（特に子ども）は鷹栖町に満足しているように感じた。  
一方で、世代別に満足度を見てみると、  
世代があがるごとに何も無いに価値を感じる事が出来なくなり大きな不満はないが満足度は下がっていると認識した。

### 提言内容

ふらっとに何かあると分かれば、ふらっとが自分にとって価値あるものになりうると考え、集客のために細かいニーズに合った活動の企画を提案した。  
例えば、小学生向けにはボードゲーム大会、社会人向けには婚活パーティなどである。



# 7. 提言内容概要(6班)

飯盛研夏合宿2022

## 提言発表会

-6班-

長期的に考える飯盛研究会とふらっとの  
属性の異なる住民に対する効果的なアプローチ

木下、浅野、鬼丸、長田、荒濱

私たちの班の  
今回のテーマ

◎3年後に飯盛研究会が抜けても、  
ふらっとで住民起点の新しい活動を生み出し続けられる

### 9/2-9/4のフィールドワーク



FW自転車でインタビュー

- ・ふらっと/鷹栖知っていますか？
- ・ふらっと/鷹栖にあってほしいものとかありますか？
- ・鷹栖すぎですか？

など

小学生、中学生、高校生、親世代、保育園の先生、  
高校の先生、高齢者...

約30名 全世代にインタビューを実施！

“

インタビューしてわかったこと

みんな鷹栖に満足していそうだった

旭川に行きやすい、住みやすい、鷹栖になくても、  
旭川に行くと言った意見が多く出た。

”



# 7. 提言内容概要(6班)

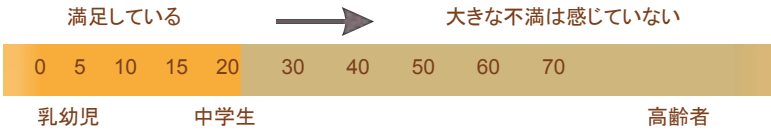
鷹栖自体に魅力を感じているのではなく、便利さに魅力を感じているのでは？



学童に行っている小学生が楽しそう。  
広い公園がある。  
旭川より、人が少なくて、遊びやすい

**子供は、鷹栖に満足していると感じた**

世代別による鷹栖での暮らしに対する満足感の変化




年齢	0	5	10	15	20	30	40	50	60	70	
満足している	○	○	○	○	○						
大きな不満は感じていない						○	○	○	○	○	
世代	乳幼児					中学生					高齢者

どのような違いがあるのか???

～中学生くらい: 鷹栖での暮らしに満足できる  
→鷹栖には公園、学童、子育て支援センターなど、遊ぶところが沢山ある

中学生くらい～: 鷹栖での暮らしに大きな不満は感じていない  
→居住環境としては満足している人が多いが、生活環境としては近隣の旭川に頼っている人が多い

インタビュー①



# 7. 提言内容概要(6班)

鷹栖での暮らしに満足できるのはなぜ？  
**"何もない"にも価値を感じることができる** ーら

例)何もない空間でもじゃんけん、鬼ごっこなどの遊びを楽しむことができる

鷹栖での暮らしに大きな不満はないのはなぜ？  
**"何もない"が価値だと感じづらくなる** ーら

→見る世界が広がり欲が出てくる。行動選択に優劣を付けるようになることで、「何もない」の価値が下がる。

"何もない"にも価値を感じることができる人(～中学生)に対して

課題

- ・無償で利用できる空間があるのに対して、ふらっとを利用するためにはコストが必要
- ・ふらっと内の静かな印象から騒げないと思っている節がある


解決策

- ・コスト面を見直し、他で賄うことで開けた空間にする
- ・騒げる日を作る
- ・無機質な外観だけでなく開放的な空間づくりを行う

EX)

- ・BGM流す
- ・「ふらっとで騒ごう！ 走ろう」の日を設ける
- ・ハンモック設置、手作り看板の設置

インタビュー②、③



"何もない"に価値を感じづらい人(中学生～)に対して

"何もない"に価値を感じづらい

↓

逆に、ふらっとに「何かある」と分かれば、ふらっとが自分にとって価値のある場所になりうる

↓

何かがあるのか分かる必要があるため、一度でもお客さんとしてでも足を運ぶ必要

↓

集客のために細かいニーズに合った活動の企画へ



# 7. 提言内容概要(6班)

3年間活動計画

3年間活動計画

幼稚園児:親子向けのイベント(工作、「福ごう会」、宝探し)  
 小学生:ボードゲーム大会、チョークでお絵描き、ふらっとで拾まろう!  
 中学生:部活やっている子→学校帰りに寄れる場の提供、料理教室・料理対決  
 高校生:進路相談会(大学生がいないから)、ふらっと部(部活をふらっとでやる)、中学まで一着で高校で別れてしまったメンバーで運動会・体力測定(高3の子から)  
 農家:新しい商品研究会  
 教師:敬語限定!しっぽりバー  
 家族連れ:ドライブインシアター(フードを中で売る)  
 社会人:婚活パーティ

3年間活動計画

・チラシ(カレンダー)ライターに抜く  
 ・のぼり(今ふらっとでやっている活動ののぼりを道脇側に立てておく)

・鷹栖町に関わる人へインタビューの詳細

インタビュー①

- ・外食や買い物は、旭川で済ませます。
- ・休日は、旭川まで行って、遊ぶことが多い。

インタビュー②

- ・お金がかかるから、会議室を使わず、丸机で利用している。


インタビュー③

- ふらっとは静かに勉強する場として、中学生の居場所になっている。

インタビュー④

- ・ふらっとは、何をしているかわからない。なので、利用したことがない。

他にもインタビューした→  
 実際の声が沢山あります!→





# 7. 提言内容概要(6班)

ご静聴ありがとうございました。







## 3.活動報告

1. 今年度の活動
2. 11月フィールドワーク
3. 1月フィールドワーク
4. 2月フィールドワーク
5. 3月フィールドワーク
6. 成果報告会資料一部

# 1. 今年度の活動



## 2. 11月フィールドワーク

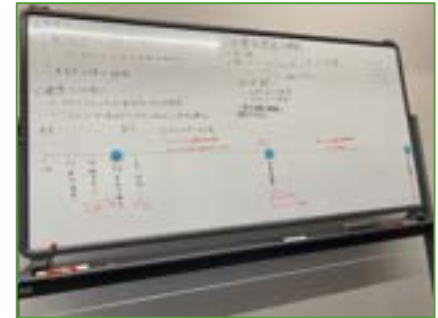
### ①目的

鷹栖町役場の職員や町民の方々との打ち合わせを行うため。  
翌年2月の「たかす誕生まつり」での活動内容を協議するため。



### ②概要

- 11月24日 鷹栖町長面談  
鷹栖高校および鷹栖地区公民館打ち合わせ
- 11月25日 まちづくり懇親会
- 11月26日 鷹栖町役場打ち合わせ  
ふらっとキッチンへの参加



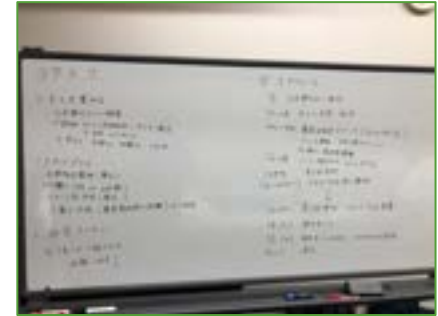
## 2. 11月フィールドワーク

### ③内容

#### ①今後の活動についての打ち合わせ

共同活動の内容を具体的に検討した。

検討の末、小中学生を中心とした 子どもクラブ「ふらっとベース」を運営し、共に活動していく方針となった。



#### ②たかす誕生まつりでの活動内容の決定

たかす誕生まつりの開催に合わせて小中学生とともにステンドグラスを作成し、展示することを決定した。





## 2. 11月フィールドワーク

### ③内容

#### ③ふらっとキッチンへの参加

定期的にふらっとで開催されている「ふらっとキッチン」に参加した。「ふらっと」のさらなる活用について理解の促進、鷹栖町の方々との親睦の深化などの成果を得た。





## 3. 1月フィールドワーク

### ①目的

こどもクラブ等を訪れ、「ふらっとベース」に参加してくれる子どもたちの募集のため。

たかす誕生まつりでステンドグラスお披露目のための準備のため。



### ②概要

1/13 学童保育に行き勧誘活動

1/14 ステンドグラス案を決定

1/15 「ふらっとベース」顔合わせ



## 3. 1月フィールドワーク

### ③内容

#### ①子どもたちに直接「ふらっとベース」への勧誘

鷹栖町の学童保育に訪れ、ふらっとベースの宣伝を行った。  
また、「ふらっとベース」の活動である「ステンドグラスづくり」にも勧誘した。



#### ②ステンドグラス制作の準備

学童保育で宣伝をし、来てくれた子どもたちと交流会を行った。また、一緒にステンドグラス案を考えた。





## 3. 1月フィールドワーク

### ③内容

#### ③ふらっとベース顔合わせ・関係者の方々との関係構築

北野地区に住む小学校と鷹栖地区に住む小学校の顔合わせや、子どもたちと大学生との交流を行った。これから活動していく上での基盤となるような関係構築に尽力する。







## 4. 2月フィールドワーク

### ①目的

ふらっとベースの活動を実際に現地で行うため。  
第2回アロマキャンドルWSの準備のため。



### ②概要

- |          |               |
|----------|---------------|
| 1/30     | アロマキャンドル打ち合わせ |
| 1/31-2/3 | 事前作業          |
| 2/4      | 鷹栖誕生まつり当日     |
| 2/5      | 鷹栖誕生まつり片づけ    |
| 2/6      | アロマキャンドル試作    |



## 4. 2月フィールドワーク

### ③内容

#### ①ふらっとベースでステンドグラス作り

飯盛研の学生で元デザインと土台を作成した。

子どもたちにはセロハンを切って貼る作業を任せた。

学生が手伝いながら一緒に作り上げていくことができた。

#### ②鷹栖誕生まつりのサポート

制作したステンドグラスをふらっとの玄関に設置した。

祭り開催準備や当日運営を行なった。

#### ③第2回ふらっとベースの準備

3/19に予定していたアロマキャンドルWSのための

ミーティングと試作を行なった。





## 5. 3月フィールドワーク

### ①目的

今年度の活動報告を行うため。  
第2回ふらっとベース開催のため。

### ②概要

- 3/18 鷹栖町元気プロジェクト 成果報告会
- 3/19 アロマキャンドルワークショップ
- 3/20 プロジェクト打ち合わせ





## 5. 3月フィールドワーク

### ③内容

#### ①鷹栖町元気プロジェクト 成果報告会

飯盛義徳教授とプロジェクトメンバーから鷹栖町の方々へ今年度の成果報告を行なった。 ※次ページに資料掲載

#### ②アロマキャンドルWS

第2回ふらっとベースの活動として、アロマキャンドル制作のワークショップを開催した。

#### ③打ち合わせ

来年度以降の活動内容や方針に関して、鷹栖町役場の方々とプロジェクトメンバーで打ち合わせを行なった。





ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

# 6. 成果報告会資料




ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus



令和4年度  
鷹栖町元気プロジェクト年度末活動報告


2023年3月18日  
慶應義塾大学  
鷹栖町元気プロジェクトリーダー  
小林美月

## 自己紹介

- 
- ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus
- 小林美月
  - 慶應義塾大学総合政策学部 飯盛義徳研究会2年
  - 鷹栖町元気プロジェクトリーダー
  - その他の活動：岩手県釜石市の高校生と防災啓発活動  
山梨県北杜市の活性化検討 etc..

Isagai lab: Takasu town genki project

1




ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

## 目次


- 1 鷹栖町元気プロジェクトとは？
- 2 令和4年度の活動報告
- 3 令和5年度の方角性

Isagai lab: Takasu town genki project

2



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus



## 鷹栖町元気プロジェクトとは？

Isagai lab: Takasu town genki project

3




# 6. 成果報告会資料

鷹栖町元気プロジェクトとは？

鷹栖町住民センター「ふらっと」を有効活用し、  
鷹栖町を元気にする！！

2022年度5月の事前活動を経て  
2022年9月に正式にスタート！



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project 4

3年間の目標

「ふらっと」の有効活用とは？

→“ふらっと”で“何か交流”が生まれること

↓

**住民の居場所づくり**

ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project 5

R4・R5年度の目標

住民の居場所づくり

↓

ふらっとを拠点にして活動する子ども団体

**“ふらっとベース”**

ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus


Isagai lab: Takasu town genki project 6

ふらっとベースとは？

鷹栖町在住の子どもが地域との交流により  
郷土愛を育むことを目的としたプロジェクト

具体的には..

- ①ふらっとを拠点にした活動を実施
  - ・ステンドグラス制作
  - ・アロマキャンドルづくり
- ②ふらっと子どもたちが自然と集まるスペースを設定

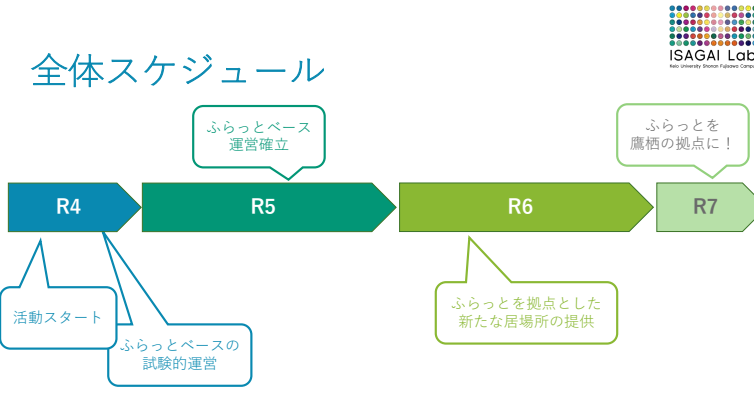


ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project 7

# 6. 成果報告会資料

## 全体スケジュール



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

ふらっとベース 運営確立

ふらっとを拠点とした新たな居場所の提供

ふらっとを 鷹栖の拠点に!

活動スタート


ふらっとベースの 試験的運営

Isagai lab: Takasu town genki project

8

## 鷹栖町のフィールドワーク(11月)

- ・谷町長への進捗報告
- ・まちづくり懇親会への参加
- ・地域の子どもや地域の方々との交流



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project

11

## 鷹栖町のフィールドワーク(9月)


- ・慶應義塾大学飯盛研究会 約30名で参加
- ・6つの班に分かれ、鷹栖町観光や地域の方へのインタビューなどを行い、鷹栖町の課題から3年間の活動案を提示



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project

10



## 令和4年度の活動報告

ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project

9

# 6. 成果報告会資料

## “ふらっとベース”での活動(1月)

- 顔合わせ
  - 北野と鷹栖の交流
  - 大学生との交流



Isagai lab: Takasu town genki project

12

## “ふらっとベース”での活動(2月)

- ふらっとベースで「スタンドグラスづくり」
- 制作発表のため、鷹栖誕生まつりへの参加・展示



Isagai lab: Takasu town genki project

13

## “ふらっとベース”での活動(3月/予定)

- アロマキャンドルワークショップ  
たかす誕生まつりで余ったロウソク再利用の活動として、オリジナルアロマキャンドルを作るワークショップを実施予定。

参加者：鷹栖小8名、北野小8名、  
その他幼稚園生や中学生など



Isagai lab: Takasu town genki project

14

## 参加者の声

鷹栖町在住高校2年生  
増井明日風さん



Isagai lab: Takasu town genki project

16





# 6. 成果報告会資料

## 令和4年度の成果と反省



### 成果

- 地域のイベントに参加し、鷹栖元気プロジェクトの活動を認知してもらうことができた
- ふらっとベースの活動を行い、小中高生との交流を図った
- 遠距離での活動のため、鷹栖町住民との連携の大切さを知った

### 反省点

- ふらっとベースの中高生の参加率が低い
- 地域のみで、自走して活動することが難しい
- 課題で挙げられていたふらっとの可視化が改善されていない



## 令和5年度の方角性



## 令和5年度の活動軸



- ① ふらっとベースの活動促進
- ② 鷹栖町民との関係構築

## ふらっとベースの活動促進案





- ① 中高生など、主体的に動ける年齢層を増加
- ② 地域住民を巻き込み、鷹栖のことを教えてもらいつつ子どもたちが活動しやすい仕組みづくり
- ③ 放課後時間にちょっとした集まれる場所の設定（フリースペースの運営）



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus


## 6. 成果報告会資料



さいごに

Isagai lab: Takasu town genki project

21



### さいごに

- 令和5年度も継続して飯盛研の活動を行うので、鷹栖町住民の方のご協力をよろしくお願いいたします
- ふらっとベースの活動をSNS等で情報発信していく予定ですので、今後の活動を見ていただき、他の住民の方々に伝えていただくと嬉しいです

Isagai lab: Takasu town genki project

22



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project

23



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料

ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus



## 鷹栖町元気プロジェクト 最終成果報告

2023年3月18日


慶應義塾大学  
SFC研究所所長／総合政策学部教授  
飯盛義徳  
いさがいよし のり  
©Yoshinori Isagai

いさがいよし のり  
飯盛義徳、博士（経営学）  
慶應義塾大学SFC研究所所長／総合政策学部教授／慶應義塾評議員

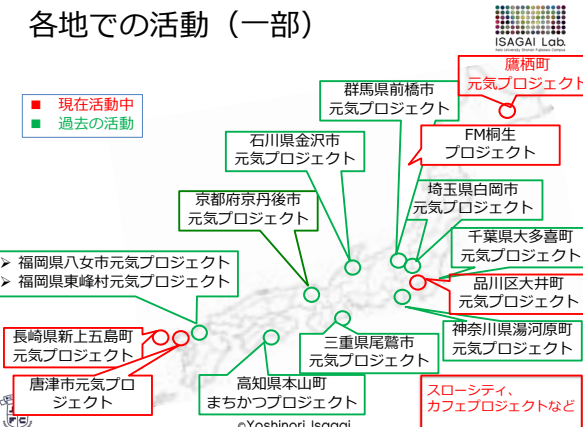
専門：プラットフォームデザイン、地域づくり、ファミリービジネスマネジメント

総務省地域力創造アドバイザー、国土交通省小笠原群島振興開発審議会委員、藤沢市教育委員会委員、前・内閣府中心市街地再生方策検討会座長、高知県中山間地域活性化アドバイザー、ファミリービジネス学会常任理事、情報社会学会理事、NPO 鳳雛塾 理事長（ファウンダー）

佐賀市生まれ。長崎私立青雲高等学校卒業。上智大学文学部卒業後、松下電器産業株式会社入社。慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程修了後、飯盛教材株式会社入社。NPO 鳳雛塾設立。慶應義塾大学大学院経営管理研究科博士課程入学。慶應義塾大学環境情報学部専任講師、// 総合政策学部准教授、// 教授、現在に至る。慶應義塾大学SFC研究所長、// 総合政策学部学部長補佐などを務めた。



### 各地での活動（一部）



■ 現在活動中  
■ 過去の活動

- 鷹栖町 元気プロジェクト
- 群馬県前橋市 元気プロジェクト
- 石川県金沢市 元気プロジェクト
- 京都府京丹後市 元気プロジェクト
- 福岡県八女市 元気プロジェクト
- 福岡県東峰村 元気プロジェクト
- 長崎県新上五島町 元気プロジェクト
- 唐津市 元気プロジェクト
- 高知県本山町 まちかつプロジェクト
- 三重県尾鷲市 元気プロジェクト
- 神奈川県湯河原町 元気プロジェクト
- スローシティ、カフェプロジェクトなど
- 千葉県大多喜町 元気プロジェクト
- 品川区大井町 元気プロジェクト
- 埼玉県白岡市 元気プロジェクト
- FM桐生 プロジェクト

ISAGAI Lab.  
©Yoshinori Isagai



# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料





# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料



地域資源

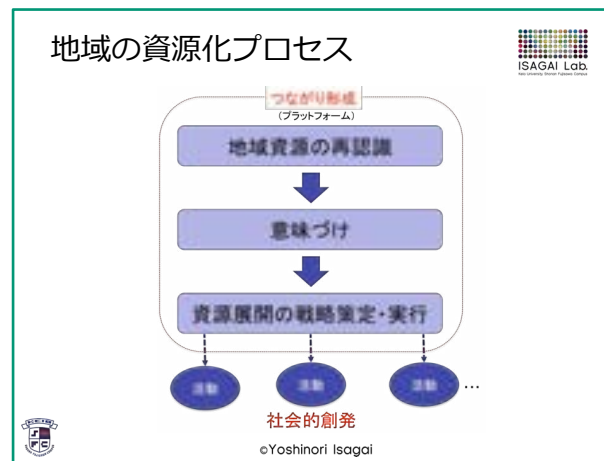
- ヒト
  - 住民、自治体、企業、NPOなどの主体
- モノ (見えるもの)
  - 自然環境、史跡、農水産物など
- カネ
  - 予算など
- 情報 (見えないもの)
  - 歴史、文化、ストーリー、ブランドなど

©Yoshinori Isagai

大学連携のメリット

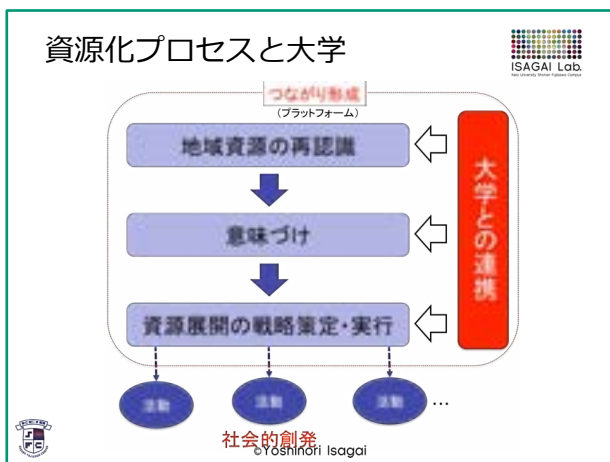
- 新しい地域資源の発掘
- 地域の人々の主体性の発揮
- 地域内外の新しいつながりの形成

©Yoshinori Isagai





# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料



### 新しい地域資源の発掘

- 世代も地域も違う新たな視点
  - 学生の視点は非常に新鮮に感じました。
  - 外の目からの見た町に対する分析、提案を頂き有り難うございました。
  - 外部から見た若者の感性と視点には感心した。

(出所) ある地域での活動後の地域の人々を対象とした調査より。

©Yoshinori Isagai



### 主体性の萌芽

- 何らかの実践
  - 商品開発に取り組んで近い時期に地元で販売をしたいと思います。
  - すぐに研究室のメンバーにはお土産として発送、商品開発にはずみがつきました。
  - いろいろ考えるより、積極的に行動に移したいと思います。

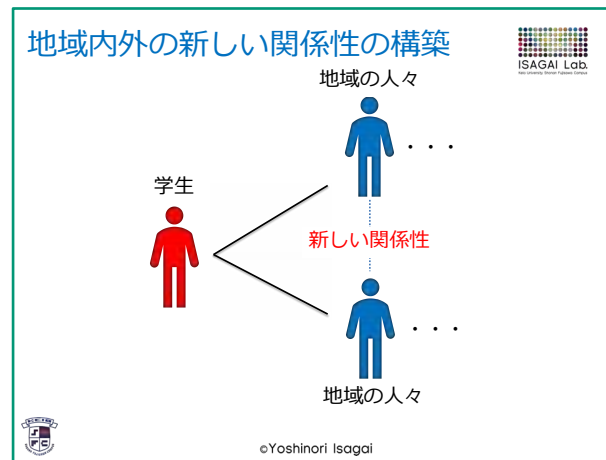
(出所) ある地域での活動後の地域の人々を対象とした調査より。

©Yoshinori Isagai



ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料



# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料






# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料



# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料

マネジメントのデザイン



資源が結合し、参加者の主体性を引き出す

資源持ち寄りを実現する




©Yoshinori Isagai

わいわい！！コンテナ（佐賀市）

(出所) 建築家 西村浩氏提供。



©Yoshinori Isagai




(出所) 建築家 西村浩氏提供。



©Yoshinori Isagai

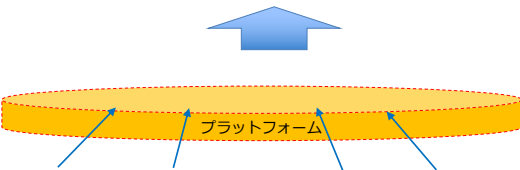


# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料




(出所) 建築家 西村浩氏提供。 ©Yoshinori Isagai

資源を持ち寄り共創




©Yoshinori Isagai

あったかふれあいセンター



- あったかふれあいセンター
  - 年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる高知県内31市町村48カ所に設置された、小規模多機能支援の地域福祉の拠点
- あったかふれあいセンターとかの
  - 高知市から車で約1時間の距離にある、高知県佐川町（人口約1万3000人）の斗賀野地区に設置
  - 主な産業は農業、林業であり、佐川茶、新高梨、甘栗、司牡丹などが特産物
  - 男性の利用者が比較的高い施設



©Yoshinori Isagai



(提供) 高知県 大石佳代氏。 ©Yoshinori Isagai



# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料



(提供) 高知県 大石佳代氏。




©Yoshinori Isagai



(提供) 高知県 大石佳代氏。




©Yoshinori Isagai

あったかふれあいセンターとかの 

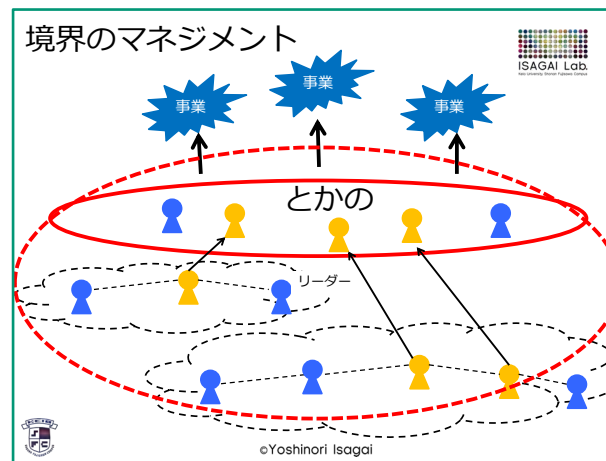
- 単に場を提供するだけでなく、あえて利用者に役割や出番をつくり、できることを実践してもらうよう誘導
- 外部の防災組織や自治会の人々、民生委員などにも積極的に声をかけて活動に参加してもらうとともに、地域の情報や人的ネットワークなどの資源を共有、活用
- これが場での一参加者から地域において何かの活動を行う主体へと転じる契機

↓

一緒に場をつくっていくという余地を残しておくことで参加者の主体性を育み、場の内外の様々な資源を結びつけ、参加者全員で自由に活用できるという文化を定着させていくことが地域づくりへと開展するポイント




©Yoshinori Isagai






# 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料


場のマネジメント（境界を中心に） 

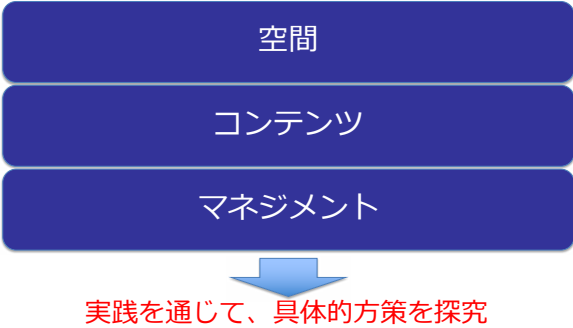
- 効果的な場は一気に形成されず
- あるときは境界を明確にしたり、曖昧にしたり、広げたり、狭めたりしながら、寛容性をもって柔軟に対応し、バウンダリースパナー（boundary spanner）としてコミュニティの内と外の人々をうまくつなげていくマネジメントが不可欠
- あえて余白を残すことでコミュニティを共創（co-creation）して、多様なインセンティブをもった人々に資源を持ち寄ってもらって交換を促進し主体性を育むことが重要

 ©Yoshinori Isagai



 ©Yoshinori Isagai

研究と実践 




空間

コンテンツ

マネジメント

実践を通じて、具体的方策を探究

 ©Yoshinori Isagai





ISAGAI Lab.  
Keio University Shonan Fujisawa Campus

## 6. 成果報告会飯盛義徳先生資料



地域大学連携の可能性



学生の視点をいかして、地域の魅力を再発見するとともに、地域の新しいつながりをつくり、担い手の確保・育成を実現



**地域の自走力**



©Yoshinori Isagai

ありがとうございます！  
今後とも宜しくお願いいたします！





# 成果まとめ

1. 2022年度のまとめ
2. 2022年度の成果
3. 2022年度の反省

# 1. 2022年度のまとめ

課題	ふらっとの利用者を増やす	
解決策	子ども向けのコミュニティをつくる	
結果	子どもクラブ「ふらっとベース」の活動が月1回開催している	
成果	<p><b>【課題に対する成果】</b></p> <p>①<u>ふらっとの認知度向上</u> 鷹栖地区以外の住民にもふらっとの存在を知ってもらえる機会となった。</p> <p>②<u>ふらっとの課題明確化</u> ふらっとの課題を地域住民の方と慶應大学生が意見交換を行う中で明確にすることができた。来年度から具体的に進めていきたい。</p>	<p><b>【ふらっとベースに対する成果】</b></p> <p>①<u>ふらっとベースの定期的開催</u> ふらっとベースを1月に立ち上げてから月に一回定期的に開催している。毎回参加してくれる子もおり、参加人数も増え、徐々に定着しつつある。</p> <p>②<u>子どもの地域活動の参画</u> 鷹栖町在住の小学生から高校生まで約30名が参加し、ふらっとを拠点とした地域活動に参加するきっかけとなった。</p>



## 2. 2022年度の成果

### ①鷹栖町元気プロジェクトの認知向上

たかす誕生まつりなどの地域のイベントに参加し、慶應義塾学飯盛義徳研究会「鷹栖町元気プロジェクト」の活動を認知してもらうことができ、地域の方々から鷹栖町の魅力をお聞きすることができた。

### ②ふらっとベースへの参加人数の増加

ふらっとベースの活動を行い、小中高生約30名の子どもと交流を図ることができた。また、子ども同士の地区を跨いだ交流を促進させ、情報共有の場につながった。

### ③自発的な活動の考案

子どもたちから直接、やりたいことを募ることができた。今後は、このような子どもたちの自発的な意見から活動を行っていききたい。また、地域住民の方々との連携を図り、鷹栖町内で自発できる体制を作っていききたい。

## 3. 2022年度の反省

### ①ふらっとベースの中高生の参加が少ない

自走していくために必要不可欠な中高生の参加率が乏しい。原因としては、部活動や課外活動などで忙しいため、なかなか新しい活動に踏み込むことが難しい。また、鷹栖町内の学校に通っていない場合もあるため、活動への認知が課題となっている。

### ②地域のみで、自走して活動することが難しい

上記にも挙げたように中高生の参加率が低いため、活動を自発的に行うことが難しい。また、遠隔での活動のため地域の方からの手助けが必要不可欠となっている。地域の方への参加を促す必要がある。

### ③課題で挙げられていたふらっとの可視化が改善されていない

夏合宿でも挙げられた「ふらっとの可視化」が、改善されていない。ふらっとGO（旧：鷹栖地区公民館・鷹栖地区住民センター管理団体）と連携し、解決していく。



# 2023年度の活動

1. ふらっとベースの活動促進
2. 鷹栖町の方々との関係構築

# 1. ふらっとベースの活動促進

## ①中高生など、主体的に動ける年齢層を増やす

町外の高校にもふらっとベースのチラシを配架し、町外の学校に通う高校生にも認知してもらう。

## ②地域住民と協力するための仕組みづくり

地域住民を巻き込むため、さまざまな分野で活躍されている住民の方々にお手伝いしてもらう。また、この仕組みが定着すれば、鷹栖町のことを子どもたちが教えてもらうことができ、さらに子どもたちが地域で活動しやすくなると予想する。

## ③フリースペースの運営を試みる

放課後時間にちょっとした集まれる場所を設定し、ふらっとに自然と集まる場所に定着させたい。勉強や遊びなど、来年度は子どもを対象としたフリースペースを想定した試験的運用を試みる。

## 2. 鷹栖町の方々との関係構築

### ①地域のイベントへの参加

昨年度同様、地域イベントに参加し、鷹栖町の方々への認知を高めるほか、今後活動に参加していただけるように関係構築を行なっていきたい。

### ②ふらっとGOとの連携

ふらっとGO（旧：鷹栖地区公民館・鷹栖地区住民センター管理団体）と定期的に意見交換を行い、鷹栖町の他の活動と連携しながら、ふらっとベースの運営ができないか確認する。



**ISAGAI Lab.**

Keio University Shonan Fujisawa Campus

Isagai lab: Takasu town genki project